

企業名：住友大阪セメント

レポート名：「統合報告書 2022」

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

住友大阪セメントは、環境面と成長面で2つの目指している将来の姿を示している。環境面では、豊かな社会づくりと地球環境保全に貢献することを理想像としている。続いて、成長面ではセメント関連事業および高機能品事業の両分野で、市場を拡大し、安定的に成長し続ける企業グループとなることを目指す将来の姿として挙げている。ここでは以上2つの理想像を、分かりやすく説明しているか検討していく。

A. 豊かな社会づくりと地球環境保全に貢献するという理想像について * 1

この理想像に対しては、豊かな社会づくりと地球環境保全という2項目についてそれぞれ意見を述べる。

まず、豊かな社会づくりについてであるが、「豊かな社会」とは抽象的な言葉であり、理解に苦しんだ。ただ、住友大阪セメントは統合報告書によると、女性の新卒採用や管理職に占める割合を増加させようとしたり、男性の育児休暇取得率の増加を目標にしたり、有給取得率を8割近くにしたり、健康経営優良法人に認定されたり、公正な取引のための独自方針を掲げたりしていた。このように具体的な取り組みは多く、「豊かな社会」のイメージは何となく浮かぶものの、具体的に何を指すのかを明示する必要を感じた。

次に、地球環境保全についてである。具体的には、カーボンニュートラルへの目標達成に向けた設備投資の実施、廃棄物・副産物・災害廃棄物のセメントの代替原料やエネルギー源としての使用、自社の保有地における希少野生生物の保護活動など様々な取り組みを行っていると書かれていた。このように地球環境の保全という目標は、とても理解しやすいものとなっていた。

* 1 「統合報告書」2022 P.2,5—7,9,37,39,40,44,48 を参照

B. セメント関連事業および高機能品事業の両分野で、市場を拡大し、安定的に成長し続ける企業グループとなるという理想像について * 2

実現するために、以下2つの基本方針を掲げている。

1. 外部環境変化に対応し、収益基盤を強化するとともに事業を拡大する。
2. 企業に対する社会的要求に対応するとともに、将来将来の経営リスクに備えた施策を検討・立案する。

これら2つの基本方針が理解しやすいか述べる。

まず、1つ目の方針に対しては、コストアップに対応してセメントの値上げをすることで、収益基盤を強化に動いている。一方で、事業拡大は社内での議論段階にあると諸橋社長自ら明言している。

次に、2つ目の方針についてである。企業に対する社会的要求が何であるのかについては

っきりと示されていないものの、その要求への対応とは前述した環境面での理想像を追求する様々な取り組みが、該当すると考えられる。経営リスクに対しては、海外での特許の取得促進や、社長を委員長とするリスク管理委員会の設置を実施することで対応している。

このように、これら 2 つの基本方針について住友大阪セメントは具体的な対応を示し、分かりやすく説明しているといえる。

* 2 「統合報告書」2002 P.3,11,12,28,49 を参照

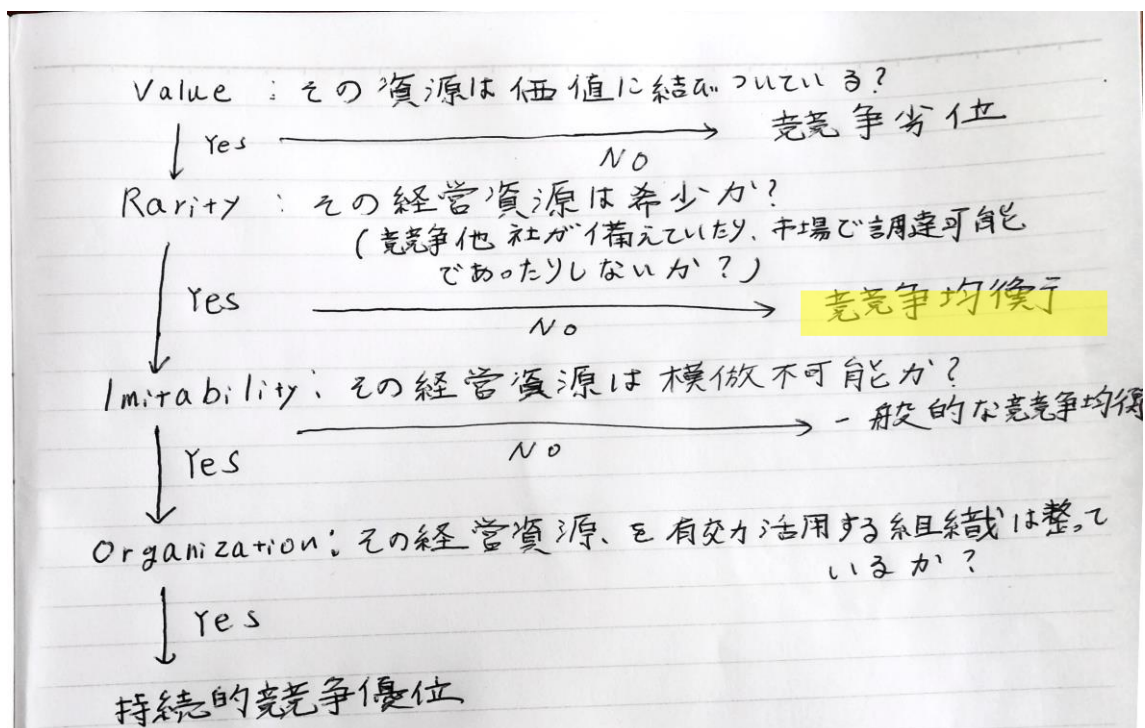
2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか * 3

統合報告書からは、以下のような住友大阪セメントの競争優位性を生み出す、強みを読み込める。

- 同業とのアライアンス進展による競争力強化、海外市場進出による収益拡大
- 温室効果ガス排出削減、省エネ設備の技術向上
- リサイクル推進による収益拡大
- 新技術開発による成長機会獲得

* しかし、住友大阪セメントの売上高構成費の 86.6% を占めるセメント関連事業において、圧倒的競争優位を保つ太平洋セメントの統合報告書にも同様の記載があり、相対的な強みとしては疑問が残る。また、VRIO 分析を行うとこれらの強みは競争均衡の状態を提供しているだけだと判断できる。

参考：VRIO 分析の方法



* 3 「統合報告書」2022 P.15,16,19,20 及び太平洋セメントレポート2022（太平洋セメントの統合報告書）P.62—75 を参照

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

統合報告書に記載されていた、競争優位を作り出している企業の強みには、持続性があると感じられる。なぜなら、海外市場進出においては、特許の獲得や国際規格にそった品質管理体制の構築を行っており、環境面では先ほど紹介したような取り組みを行っているからだ。しかし、新技術の開発についてはその成果や規模が明記されておらず、この1点でのみ、持続性に不安が残る。その上前述したとおり、相対的に考えるとそれらの強みは競争優位性を構築しているのか疑問が残る。

* 4 「統合報告書」2022 P.28,43 を参照

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか* 5

十分できると考える。その理由は主に2つある。

1 つ目は、人材開発に力を入れているからだ。住友大阪セメントは2週間におよぶ新入社員導入研修や、各社員に合わせた「3か年育成計画」の作成、短期海外研修の実施、国内ビジネススクール派遣制度など様々な人材開発プログラムを設けている。これらの制度は、入社時から退職時まで自身の価値向上の役に立つであろう。

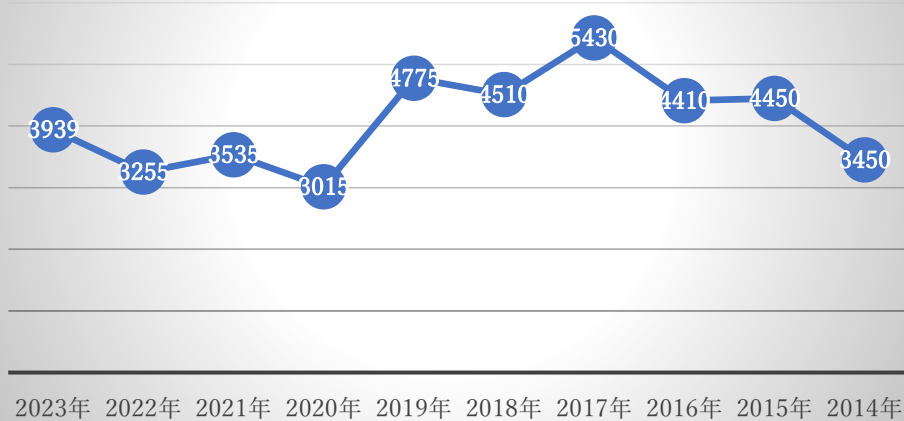
2 つ目は、地球環境保全に取り組んでいるからである。住友大阪セメントに入社したら、当然、その会社に取り組む様々な環境保全プログラムに参加するであろう。そういった経験を通して、学生時代には学ぶ機会のない環境保全の重要性に触れることが、出来るのではないか。

* 5 「統合報告書」2022 P.45,47 を参照

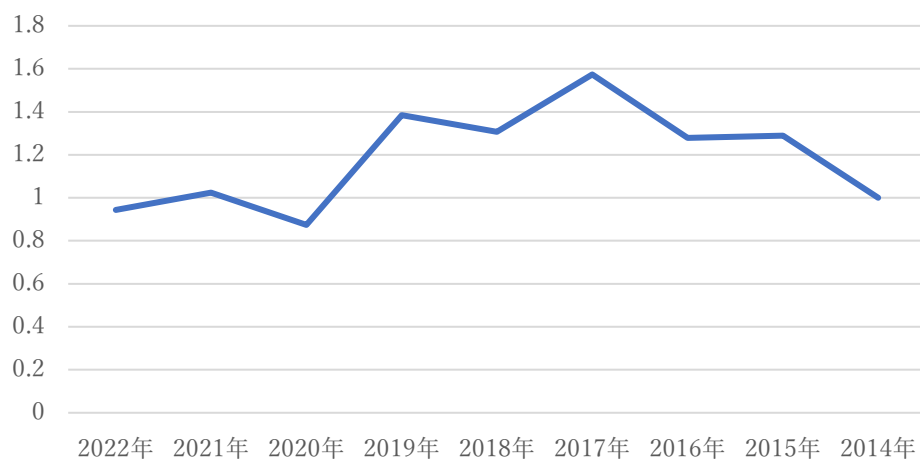
5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか * 6

私の知見のなさから、大変失礼なことを列挙してしまった面も多々あると考えられる。よかった点は、地球環境に対する取り組みと社員教育について具体例を交えながら分かりやすく示していたことだ。住友大阪セメントの株価は、コロナ禍で受注が急減した影響で主力のセメント事業の業績が悪化したことなどが起因して、下落傾向にある。そのような状況において、見えない資産についての記述が多くあったことは、株価の上昇のためにも効果的であると思う。改善点としては、自社の競争優位性について具体的な情報を記載すべきだということだ。それに加えて統合報告書では、理想の姿を実現するために行っていることがまとまって記述されておらず、読むのに苦労した。そのため、理想像を明記した上、そのための取り組みをまとめて記載すると、読みやすくなるのではないかと思う。参考：2014年から2023年の住友大阪セメントの株価のデータ（年度終値*2023年度は7月27日終値）

株価の推移



株価の成長率



* 6 [【住友大阪セメント】 \[5232\] 過去 10 年間の株価 | 日経電子版 \(nikkei.com\)](#)を参照